

美しい景観がこれからもずっとずっと続くように。
古橋がお茶の再びお茶の産地となるように。



◆ルーツは 1200 年前

「こだかみ茶」が生まれたのは今から 1200 年前。平安時代、伝教大師・最澄が「葉の木」として唐より持ち帰った茶の実を比叡山麓の坂本と己高山鶏足寺に播いたのが、お茶のはじまりだと伝えられています。その後、己高山中の寺院や多数の伽藍付近で栽培され、病に苦しむ人に分け与えられていたと言われています。やがて、お茶は里に広がり、人々の暮らしに欠かせないものとなりました。



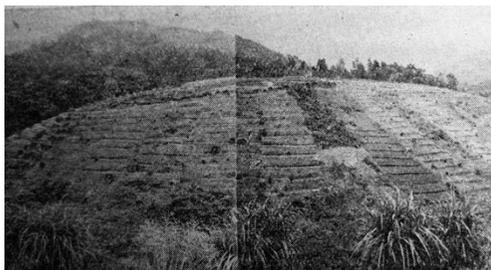
◆秀吉も愛したこだかみ茶

古橋には「こだかみ茶」のルーツとともに、もうひとつお茶にまつわる伝承が残されています。それが三献の茶の逸話です。戦国時代、長浜城主であった羽柴秀吉（豊臣秀吉）が法華寺三珠院（長浜市木之本町古橋）に立ち寄った際、寺小姓をしていた佐吉（のちの石田三成）から差し出された三杯のお茶に感銘を受け、佐吉を家来に召抱えたという逸話は、思いやりの心とともに、連綿と受け継がれてきました。現在、法華寺は廃寺となっていますが、寺跡には今もなお、たくさんのお茶の木が自生しています。



◆亀山茶畑のはじまり

亀山茶畑は己高山麓の集落・古橋から鶏足寺（旧飯福寺）へ向かう途中にある亀の甲羅のような形状の茶畑。昭和 24 年、当時、村長であった鶏足寺の住職が、地域振興のためにと所有地（亀山）を提供されたことが機となり、本格的なお茶の栽培が始まりました。



◆もう一度亀山茶畑を

しかしながら、時代の変化とともにお茶産業は衰退、平成初期には茶畑の荒廃が目立つようになりました。

「古い歴史と文化、そして地域の人たちの結（ユイ）によって育まれてきた「こだかみ茶」をよみがえらせたい！もう一度、あの頃のような緑の等高線の景観を再生したい！」

平成 28 年（2016）、（株）ふるさと夢公社きもの「亀山茶畑再生整備活動」が始まりました。

多くの市民の協力を得ながら、背丈まで伸びた雑草を取り除き余分な枝を剪定、不要な木を伐採するなどの手を加え、茶畑の景観整備を行いました。また、古くから大切にされてきた希少在来種「こだかみ茶」の栽培を守るため、かつてと同じ等高線栽培方法を用い「こだかみ茶」を実生から栽培しています。



平成 28 年の作業風景



(株) ふるさと夢公社きのもと

〒529-0425 長浜市木之本町木之本 1757

TEL/0749(82)8200

ようこそ 
亀山茶畑へ



(株) ふるさと夢公社きのもとは、こだかみ茶の再生を推進しています